

消防団

私たちのまちは私たちが守る

1月7日(日)、新春の寒空の下、今年も八百津町消防出初式が開催されました。

出初式は、江戸時代からある日本の伝統文化。今年でも新春行事のひとつとして行われています。今年の出初式は、消防団員270名が参加しました。

出初式では、地域の方々に消防活動を知っていただき、火災予防意識がより向上することを目的に、優良消防団員表彰や市中行進、一斉放水などが行われました。



今回はシリーズ防災特別編として、地域を守る身近な存在である、消防団についてお話しします。

《はじめに》

近年、全国各地で地震や風水害が多発し、「百年に一度の災害」が毎年のように発生しています。こうした状況の中で、もしものときに頼りになる、地域に密着した防災組織の必要性はさらに高まっています。

地域の方がボランティアで参加し、災害時などに地域のために行動するのが、消防団です。

しかし、全国の消防団員数は年々減少傾向にあり、八百津町においても毎年新入団員の確保に苦慮しているのが現状です。

《消防団とは》

消防団は、各市町村に設置されており、消防署と連携を図りながら消火活動や防火啓発活動などを行っている機関です。

地域に密着し、町民のみなさまの安心安全を守るという重要な役割を担っています。

《活動内容》

団員は、本業としての仕事をもちながら活動しています。火災発生時の消火活動、災害時の警戒、行方不明者の捜索など、消防団長の招集命令に応じて活動します。

また、春と秋の火災予防週間期間中や年末に行われる夜警も、火災予防を啓発するための大切な活動です。

普段は緊急時に備えた訓練や点検を行うほか、実際の災害を想定した夏季訓練や、花火大会の警備、防災訓練での指導、産業文化祭での消防団PR活動など、その活動は多岐にわたります。



《主な行事 消防操法大会》

消防操法とは、消防団の訓練のひとつで、消防における基本的な操作技能の習得を図るものです。操作技術として小型動力ポンプ操法と、ポンプ車操法があります。設置された防火水槽から、給水し火災現場を想定した火点と呼ばれる標的をめがけ放水、撤収するまでの一連の手順を行います。消防操法は、消防技術を高めるうえで、非常に重要な訓練です。

そして、この操法技能の高さを競う操法大会が全国規模(町・郡・県・全国大会)で行われています。今年度は町大会において消防ポンプ自動車の部で第一分団第二部第一班(黒瀬班)が優勝し、郡大会で日頃の訓練の成果を発揮しました。